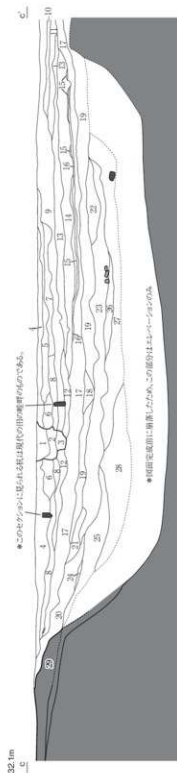




層名	色	厚	Mimeol	土質	粘性	粒度	製法	備考
1 黒	黒	2533.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
2 白	白	2537.3	砂質	中	なし	粗砂	製	
3 白	白	2537.3	砂質	中	なし	粗砂	製	
4 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
5 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
6 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
7 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
8 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
9 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
10 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
11 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
12 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
13 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
14 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
15 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
16 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
17 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
18 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
19 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
20 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
21 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
22 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
23 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
24 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	



層名	色	厚	Mimeol	土質	粘性	粒度	製法	備考
1 黒	黒	2535.3	砂質	中	なし	粗砂	製	
2 黒	黒	2535.3	砂質	中	なし	粗砂	製	
3 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
4 黒	黒	2532.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
5 黒	黒	2532.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
6 黒	黒	2532.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
7 黒	黒	2532.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
8 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
9 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
10 黒	黒	2535.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
11 黒	黒	2533.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
12 黒	黒	2533.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
13 黒	黒	2535.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
14 黒	黒	2535.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
15 黒	黒	2535.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
16 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
17 黒	黒	2532.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
18 黒	黒	2532.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
19 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
20 黒	黒	2534.4	砂質	中	なし	粗砂	製	
21 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
22 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
23 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
24 黒	黒	2534.1	砂質	中	なし	粗砂	製	
25 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
26 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
27 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
28 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	
29 黒	黒	2534.2	砂質	中	なし	粗砂	製	

図374 SR18断面 2

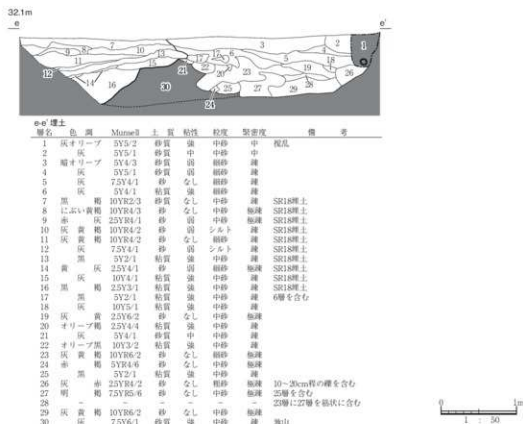


図376 SR18断面 4

下位の屈曲部から反転して外に大きく開く。口縁端部上面、外面には波状文が施されている。1269は弥生土器甕で、胴部内外面には丁寧なミガキがおこなわれている。1270～1275は弥生土器鉢である。1276～1279は弥生土器器台である。1276・1277の口縁端部上面、および外面には波状文が認められる。波状文は1278の胴部最上位の屈曲付近にも用いられている。1279は残存する胴部に円形透孔が穿たれている。1280は弥生土器壺、または甕の胴部付近の破片に穿孔が試みられた紡錘車の製作途中品とみられる。1281は口縁部にかえりをもつ須恵器杯、1282は高台が付く須恵器杯である。1283は須恵器甕である。

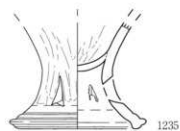
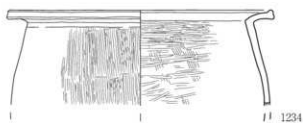
石器 1284は流紋岩製の方柱状の砥石で、残存する4面に擦痕が残る。

(3)時期 弥生時代中期後葉～後期前葉を中心とした時期の遺物も多く含まれるが、1249・1250・1268・1276～1279などから弥生時代後期後葉～終末期(V4～VI-1様式)と考えられる。須恵器1281～1283は上層を被覆する層に伴うものだろう。

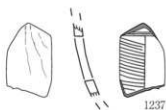
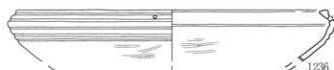
17 SR25 (7区-谷1-I+4区-谷1-I)浅谷1-E～浅谷1-A

(1)遺構(図383～305・387～389・392～394・397～405) 低位段丘2の北側を西から蛇行しながら北東へ伸びる流路で、上流部にあたる西端ではSR26が合流して浅谷1-Eを形成する。下流部(東側)でさらにSR27と合流し、より下流の浅谷へといたる。合流部分では、流されている

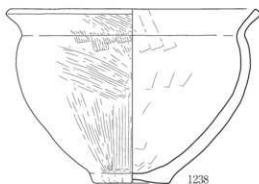
25 層



トレンチ 1



トレンチ 2



層位不明

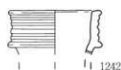
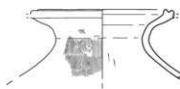
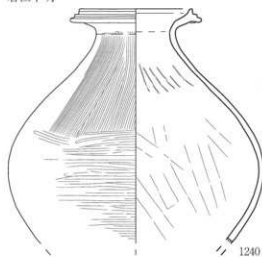


図377 SR18 出土遺物 1

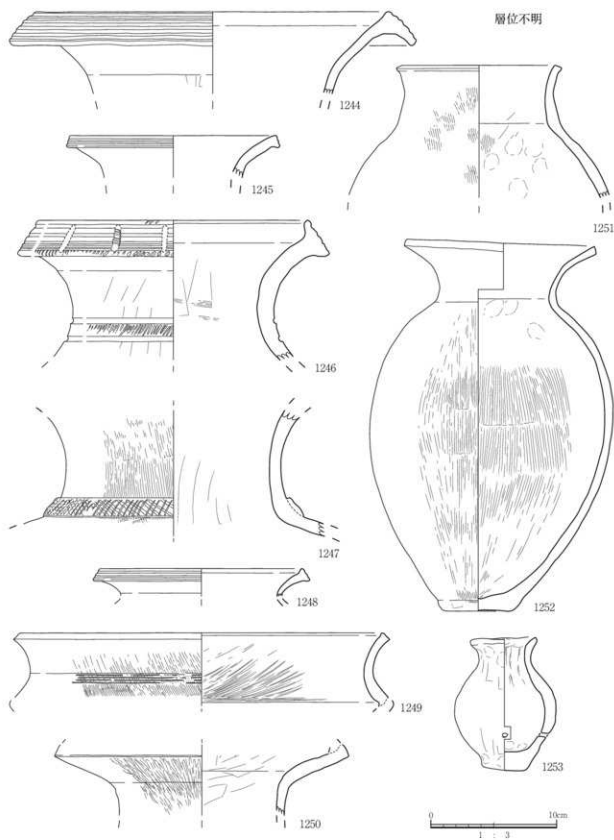


圖378 SR18 出土遺物 2

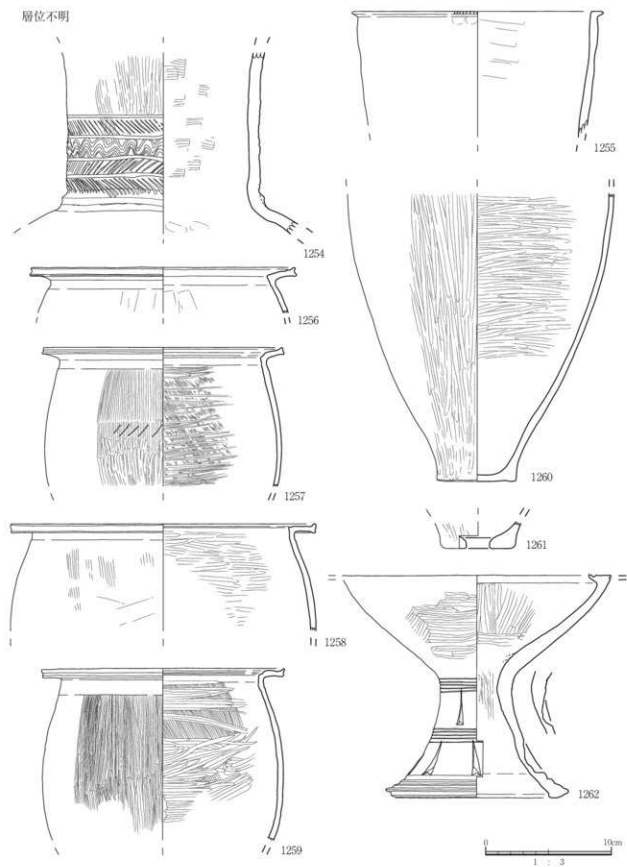


図379 SR18 出土遺物 3

層位不明

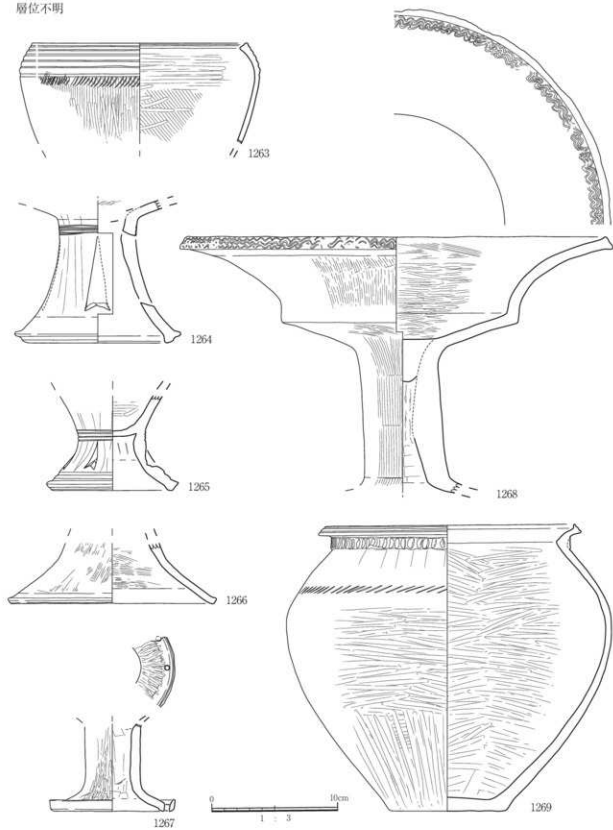


圖380 SR18 出土遺物 4

層位不明

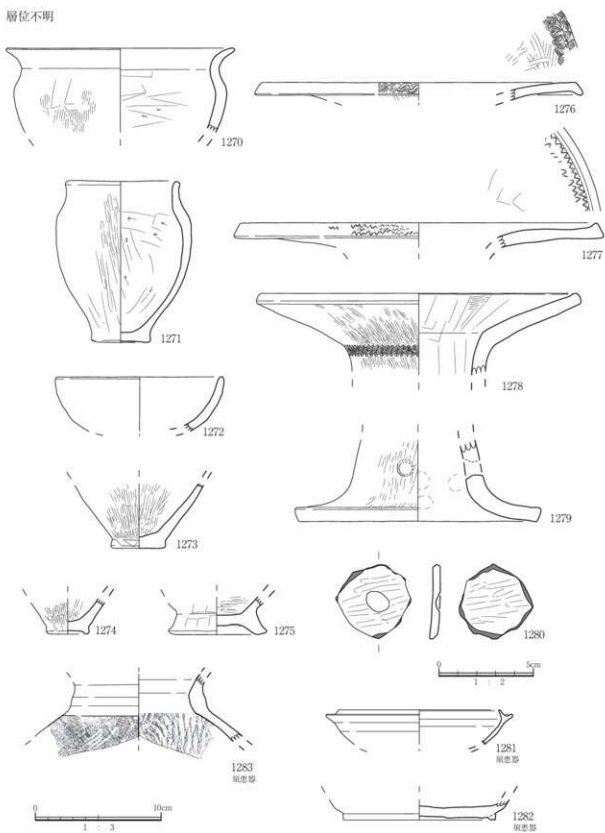


図381 SR18 出土遺物 5

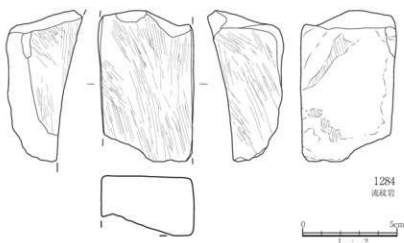


図382 SR18 出土遺物 6

が堰を形成したとみられる材が集中して確認されている。長軸方向はN-6°-Eである。検出できた規模は全長が100.68m、幅は12.84m～8.16m、最大深度は2.4mである。SK253、SD227・254・276・273、古墳時代前期のSR11に先行し、SD208・247・307に後出する。

流路の堆積状況は上流から下流の断面(a-a'～断面f-f', 図385～391)で確認した。黒色系粘土を主体とし、おおむね水平堆積である。上層では古墳時代以降古代までの遺物が出土することから、断面c-c'における1～9層は当該期の堆積(図4、基本層序IV b・IVc層)とみられ、それより下層は弥生時代以前の堆積(同IVd層)と理解している。断面a-a'では上層、断面c-c'では上～下層、それ以外は主に下層の堆積状況を示している。中位から下層を中心に植物残滓や種子などを含む腐植土層(d-d'8層、e-e'3・4層、f-f'10層など)にくわえて、葉、ドングリ、枝などを多量に含む層が堆積しており、埋没過程には一定期間の滞水した状態を含んでいる。その間に粗砂、細礫を含む層複数確認できるため、滞水と流水の状態を繰り返しながら浅谷の埋没が進行したものとみられる。また、流路下流で杭列(図386断面k-k')が検出された。杭列は約2.1mの範囲でSX24の南側を並走するが、両者の併存の可否などを含め関係性については不明である。

流路北側の肩に沿って土器溜まりが形成されていた。土器溜まりは、西側と東側に大きく2か所に分かれて分布し、西側を土器溜まり1、東側を土器溜まり2とした。土器溜まり1の集中部分はさらに2か所に分かれることから、それぞれを土器溜まり1-1、土器溜まり1-2とした。土器溜まり2では集中する部分から東側に分布が広がっている。土器溜まり中からは木質遺物も多量に出土した。

土器溜まり1・2 土器溜まり1・2はSR25北岸に位置する(図397～405)。土器溜まり1や土器溜まり2西端部では、北方向を向いた不自然な張り出し(以下、土器溜まり1の張り出しを張り出し部1、土器溜まり2の張り出しを張り出し部2とする)が確認でき、土器、木質遺物が集中して廃棄されている状況がみられた。張り出し部1(断面e-e', 図388)、張り出し部2(断面f-f', 図389)付近では、土器溜まりが形成される以前に腐植土層が堆積して流路をほぼ埋没させている。その上層には細砂層シルト層が堆積し、それらを覆って土器溜まりが形成されている。浅谷の埋没が進

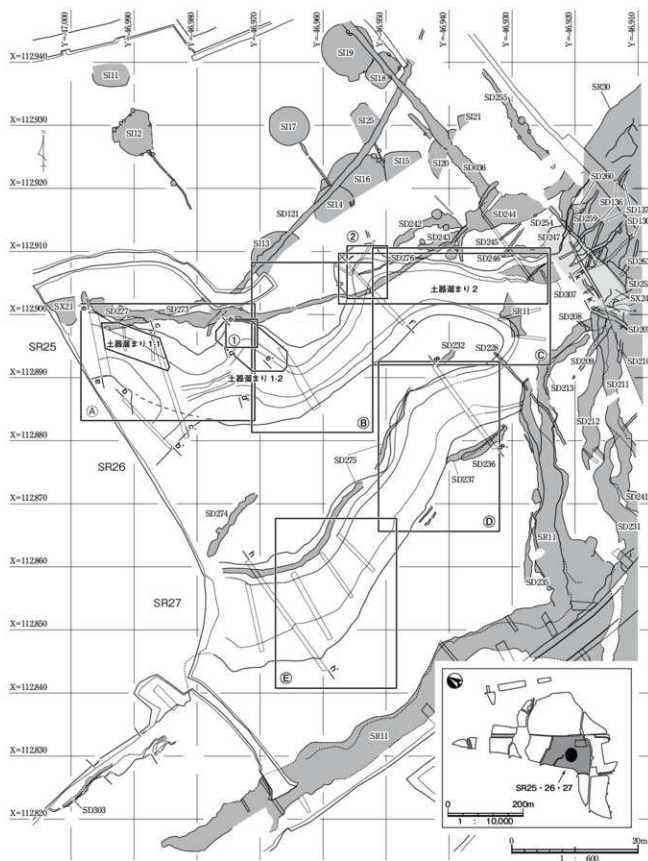


図383 SR25・SR26・SR27 平面

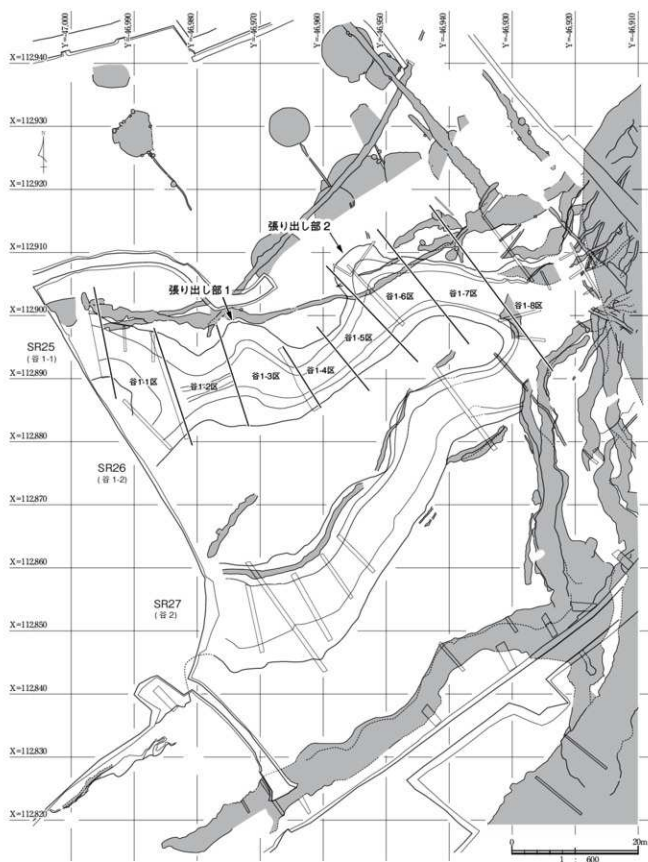


図384 SR25・SR26・SR27 区割図

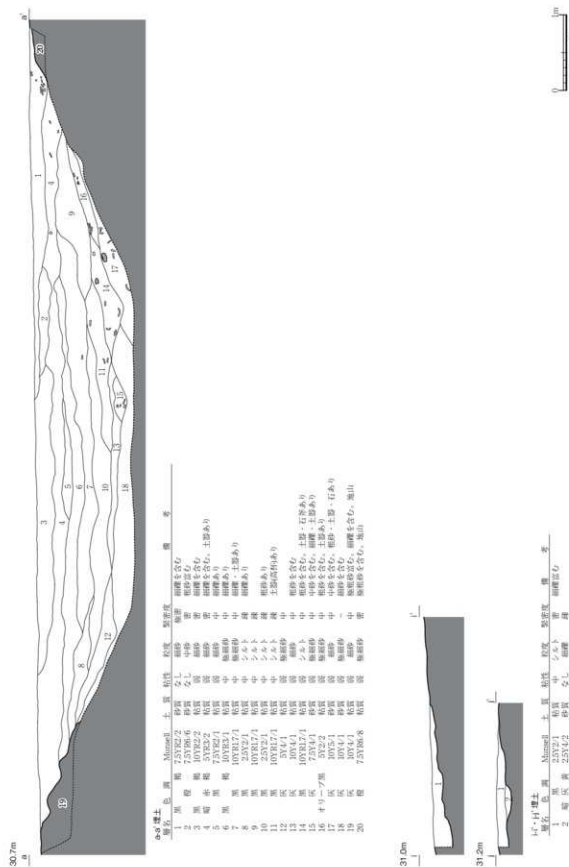
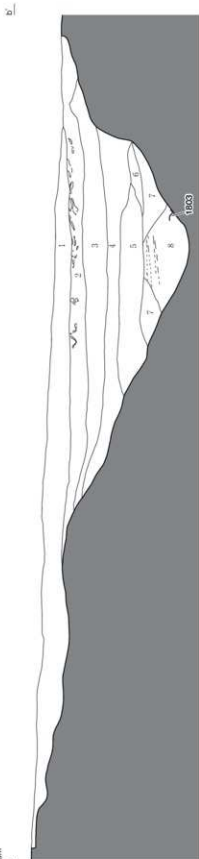
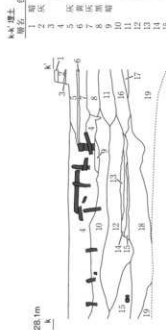


図385 SR25・SR26・SR27 断面 1

30.5m
b



b-b' 断面									
断面	層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	堅硬度	備考
1	黒	灰	黒	2.5Y3.2	粘質	中	シルト	中	細砂を含む
2	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
3	黒	灰	黒	2.5Y3.2	粘質	中	シルト	中	細砂を含む
4	黒	灰	黒	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
5	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
6	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
7	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
8	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む



● 図に本製品の取上番号が記されている製造番号は不明であるが
 影 4802 製造材・部材材 / 部材 / 材
 影 4708・1709 製造材・部材材 / 部材 / 材、同一部材の製造番号である。

a-a' 断面									
断面	層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	堅硬度	備考
1	黒	灰	黒	2.5Y3.2	粘質	中	シルト	中	細砂を含む
2	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
3	黒	灰	黒	2.5Y3.2	粘質	中	シルト	中	細砂を含む
4	黒	灰	黒	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
5	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
6	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
7	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
8	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
9	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
10	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
11	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
12	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
13	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
14	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
15	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
16	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
17	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
18	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む
19	灰	白	灰	5Y4.1	砂質	弱	シルト	中	細砂を含む



図396 SR25・SR26・SR27 断面 2

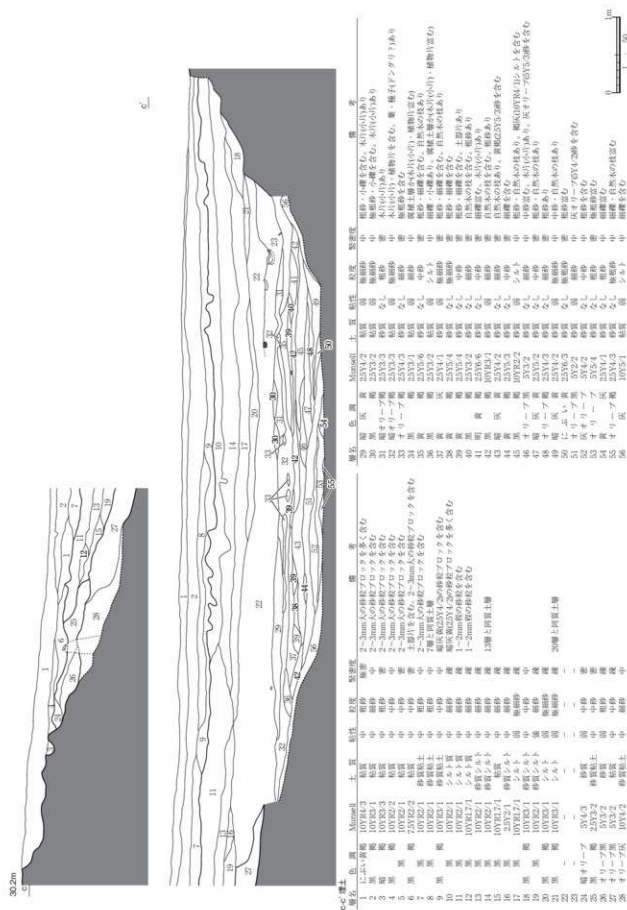
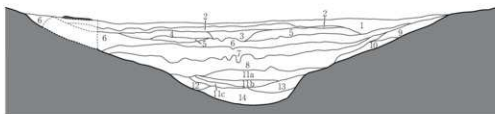


图 387	SR25 · SR26 · SR27 断面	3
-------	-----------------------	---

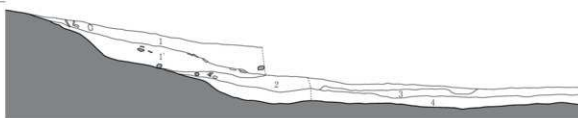
28.9m
d



d-d' 埋土

層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	堅密度	備考
1	にぶい黄褐色		10YR6/3	砂	なし	細砂	硬	a-a断面18層に対応
2	黒	暗	10YR3/2	シルト	なし	極細砂	中	枝を含む
3	にぶい黄褐色		10YR6/3	砂	なし	中砂	硬	
4	黒	暗	10YR2/2	シルト	なし	極細砂	中	枝を含む
5	灰黄	暗	10YR5/2	砂質	なし	中砂	中	
6	黒	暗	10YR2/2	シルト	なし	極細砂	中	18層に対応。葉・ドングリ・枝を含む
7	にぶい黄褐色		10YR6/3	砂	なし	中砂	硬	22・23層上面レベルに対応
8	暗	暗	10YR3/4	シルト	弱	極細砂	中	葉・ドングリ・枝を含む(茶から黒く変色する土層)。腐植土層
9	黒	暗	10YR2/2	シルト	弱	極細砂	中	枝を含む
10	灰オリーブ		5Y5/2	砂質	中	中砂	硬	
11a	にぶい黄褐色		10YR6/3	砂	なし	中砂	硬	
11b	黒	暗	10YR3/2	砂質シルト	弱	極細砂	中	枝を含む
11c	にぶい黄褐色		10YR6/3	砂	なし	中砂	硬	
12	にぶい黄褐色		10YR5/3	砂	なし	中砂	硬	
13	にぶい黄褐色		10YR5/3	砂	なし	中砂	硬	
14	にぶい黄褐色		10YR4/3	礫	なし	粗砂	硬	1~10cm大の礫・細礫を含む。礫層。谷2の最下層と同じような土層

29.4m
e

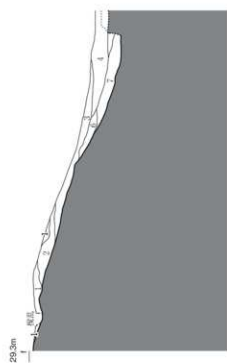


e-e' 埋土

層名	色	調	Munsell	土質	粘性	粒度	堅密度	備考
1	黒	暗	10YR3/1	砂質粘土	強	中砂	密	土層を多く含む。a-a断面14層に対応
1'	オリーブ黒		5Y3/2	砂質粘土	中	中砂	密	炭化物・土器・石器等を含む。a-a断面14層に対応
2	灰黄	暗	10YR5/2	砂	なし	細砂	硬	礫層。土層を上面レベルで含む。a-a断面18層に対応
3	黒	暗	10YR2/2	シルト	弱	極細砂	硬	腐植土層
4	暗	暗	10YR3/3	シルト	なし	極細砂	硬	腐植土層。d-d'断面6層に対応



図388 SR25・SR26・SR27 断面 4



層名	色	西	Memo	土質	形状	特徴	備考
1	黒	灰	10YR2/2	砂質	砂	細砂	細砂あり
2	黒	灰	2.5Y2/2	砂質	砂	細砂	細砂あり
3	オリーブ	灰	5Y3/2	砂質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
4	オリーブ	灰	5Y3/1	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
5	黒	灰	5Y3/2	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
6	オリーブ	灰	5Y3/2	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
7	黒	灰	2.5Y3/2	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
8	黒	灰	5Y2/1	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
9	黒	灰	5Y1/1	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
10	黒	灰	10Y3/4	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
11	黒	灰	5Y4/1	粘質	砂	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
12	黒	灰	2.5Y6/2	砂質	なし	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
13	黒	灰	2.5Y2/1	粘質	なし	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
14	黒	灰	10Y3/4	粘質	なし	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
15	黒	灰	10Y3/4	粘質	なし	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり
16	黒	灰	5Y4/1	粘質	なし	細砂	細砂・灰砂を含む。土層あり

1

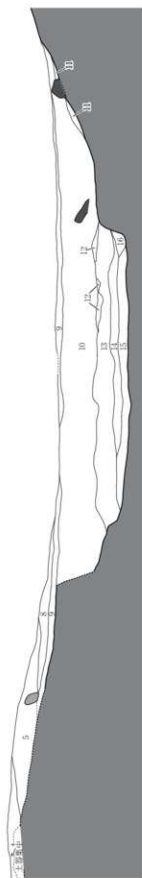
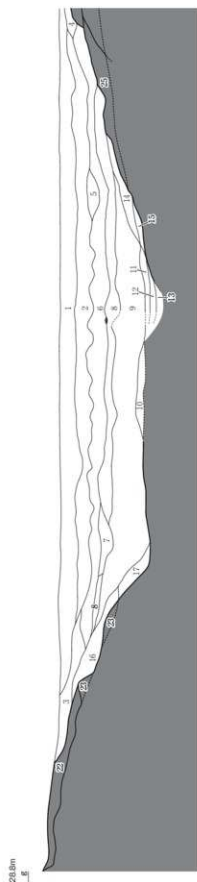


図389 SR25・SR26・SR27 断面 5



地点	位置	地質	土質	特性	地質	地質	地質
1	黒	10YR12/3	粘質	中	粘質	粘質	粘質
2	黒	N15	粘質	強	粘質	粘質	粘質
3	黒	10Y2/1	粘質	固	粘質	粘質	粘質
4	黒	2.5Y2/2	粘質	固	粘質	粘質	粘質
5	黒	2.5Y2/2	粘質	固	粘質	粘質	粘質
6	黒	10Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
7	黒	5Y2/1	粘質	中	粘質	粘質	粘質
8	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
9	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
10	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
11	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
12	黒	10Y2/1	粘質	中	粘質	粘質	粘質
13	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
14	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
15	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
16	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
17	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
18	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
19	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
20	黒	10Y2/3	粘質	中	粘質	粘質	粘質
21	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
22	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
23	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
24	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
25	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
26	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
27	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
28	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
29	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
30	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
31	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質
32	黒	2.5Y2/2	粘質	強	粘質	粘質	粘質



図390 SR25・SR26・SR27 断面 6

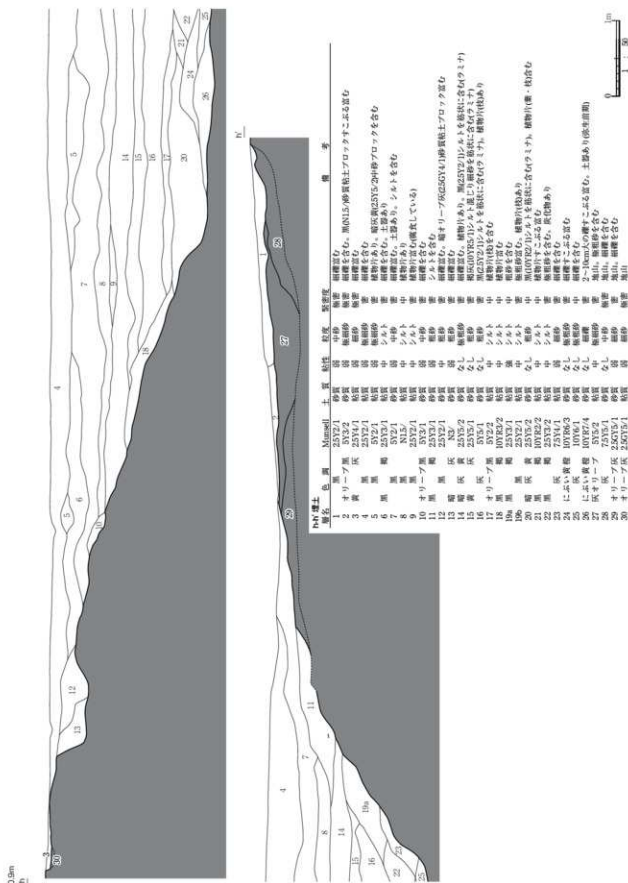


図391 SR25・SR26・SR27 断面 7

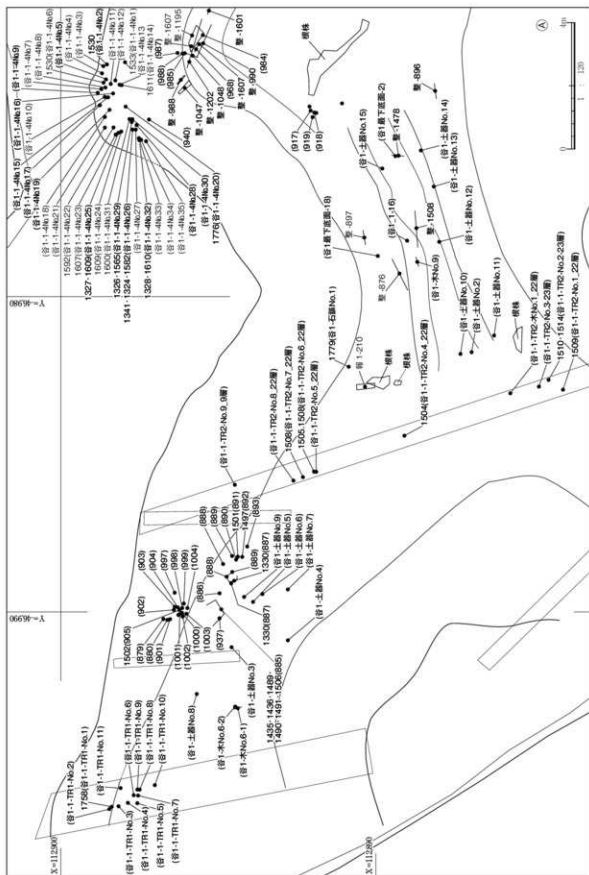


図392 SR25・SR26・SR27 遺物出土状況 1

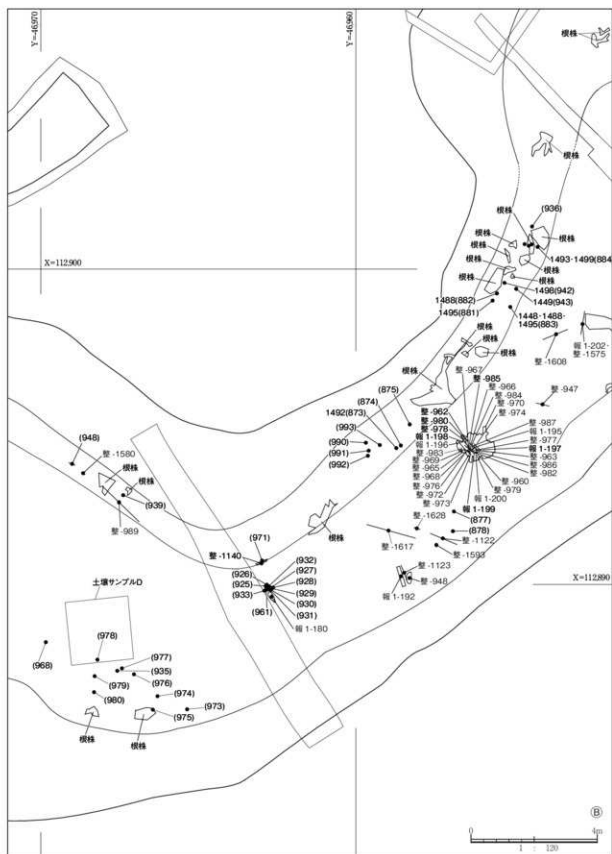


図393 SR25・SR26・SR27 遺物出土状況 2

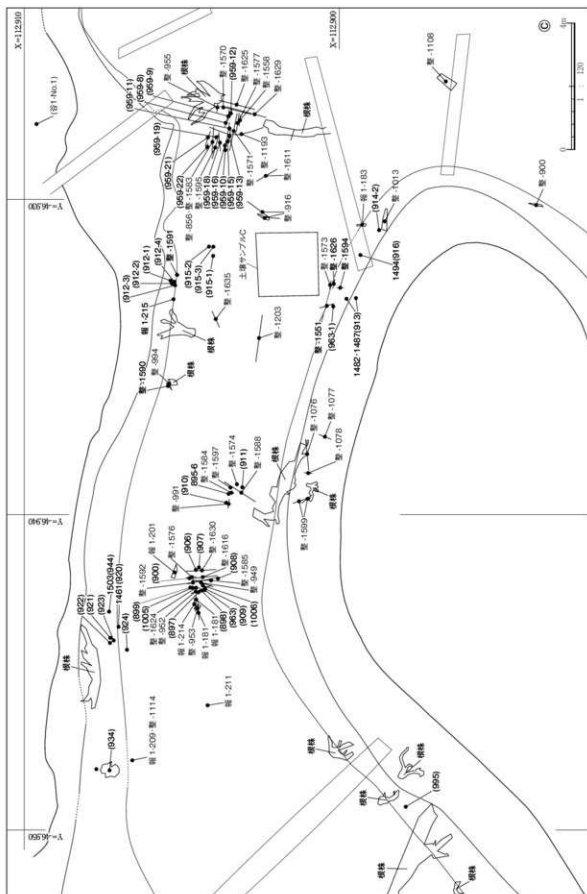


圖394 SR25・SR26・SR27 遺物出土狀況 3

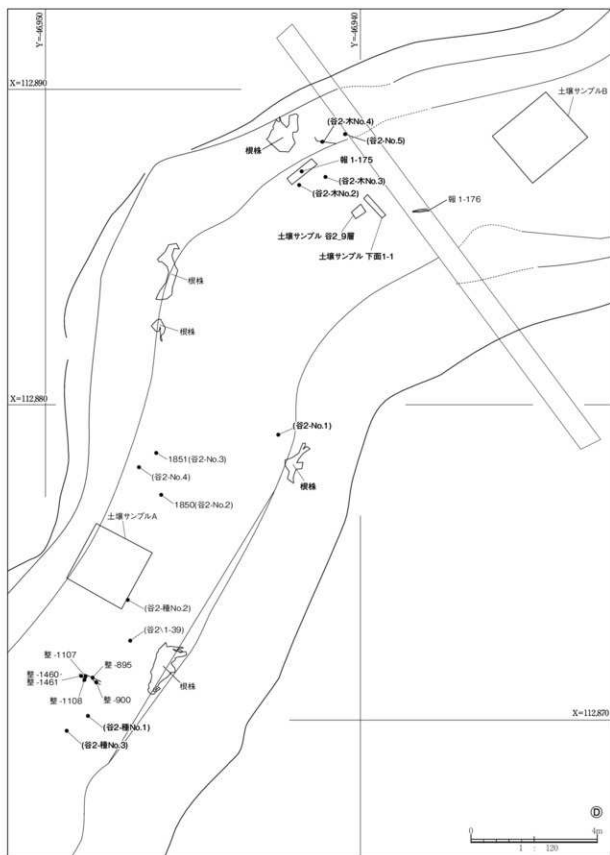


図395 SR25・SR26・SR27 遺物出土状況 4

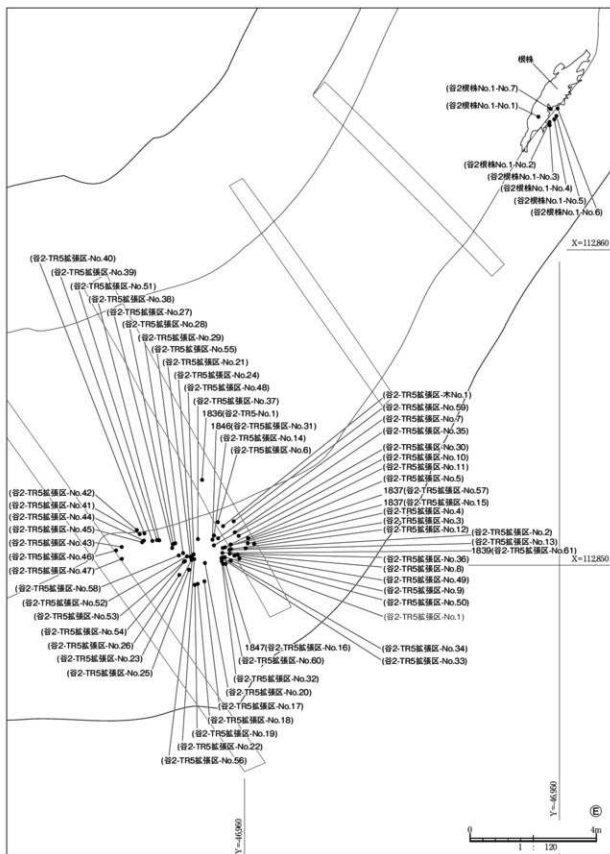


図396 SR25・SR26・SR27 遺物出土状況 5

み、かなり浅くなっていた流路の肩から土器や木質遺物の投棄がおこなわれたと考えられる。また、張り出し部1・2は、流路が北側に向かって細かくカーブする部分に形成されている。張り出し部分の底面は平坦ではないが、かなり傾斜は緩く、断面e-e'では北側に不自然な段差が認められる。これらのことから、浅くなった流路のカーブにあたる部分を若干広げて掘り窪め、廃棄に利用していた可能性は十分に考えられる。堅穴建物群が集中する居住域から投棄がおこなわれたのだろう。西側の上流域に広がると推測される集落域との関連も考えられる。廃棄された土器は通常出土するものと差がなく、やや時期幅もあるため全てが一括廃棄とは言えず、集落が営まれた時期に何度かの廃棄がおこなわれ、その過程では流水作用を受けつつ土器が堆積したと考えられる。もっとも土器が集中する土器溜まり2では、岡山平野からの搬入品や器台、長頸広口壺などが出土している。土器溜まり2では木質遺物も多く出土しており(図401～405)、その上位に弥生土器が位置する場合があることから、木質遺物→土器の順で廃棄がおこなわれたとみられる。土器溜まり2から出土した木質遺物は建築部材、平鋸、堅柱、臼、横柄杓子、杓子状木製品、堰材横木、板、角材?、加工材?、杭、ミカン割材?、自然木、樹皮である(『報告書1』参照)。

(2)遺物(図406～474) 弥生土器片、弥生時代終末期～古墳時代前期の土器片、須恵器片、土師質土器片、石器など合わせて6,271点と木質遺物が出土した。このうち木質遺物を除く502点を図化した。

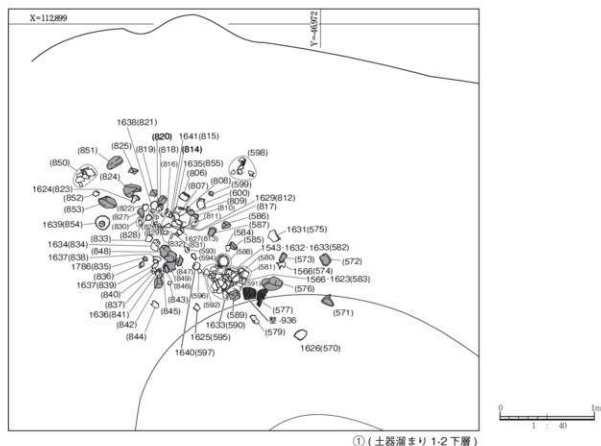


図397 SR25・SR26・SR27 遺物出土状況 6

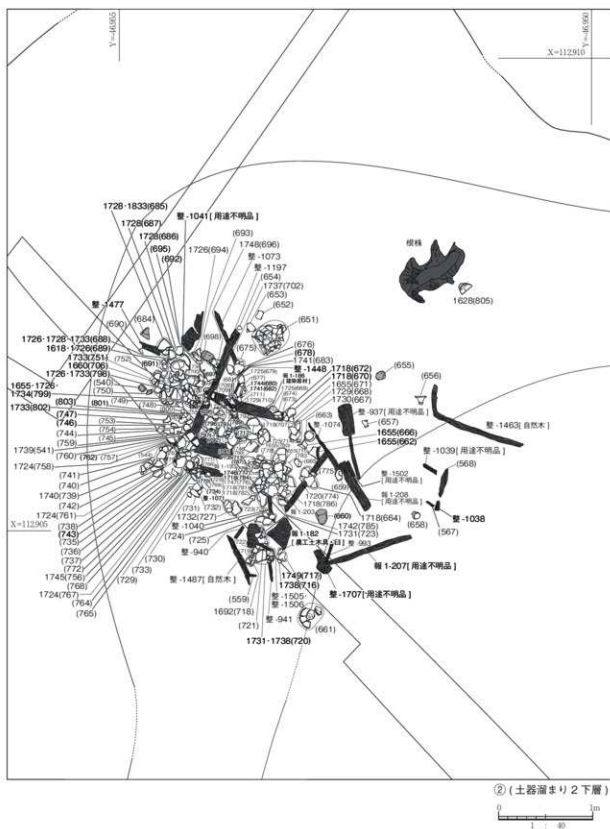


図398 SR25・SR26・SR27 遺物出土状況 7

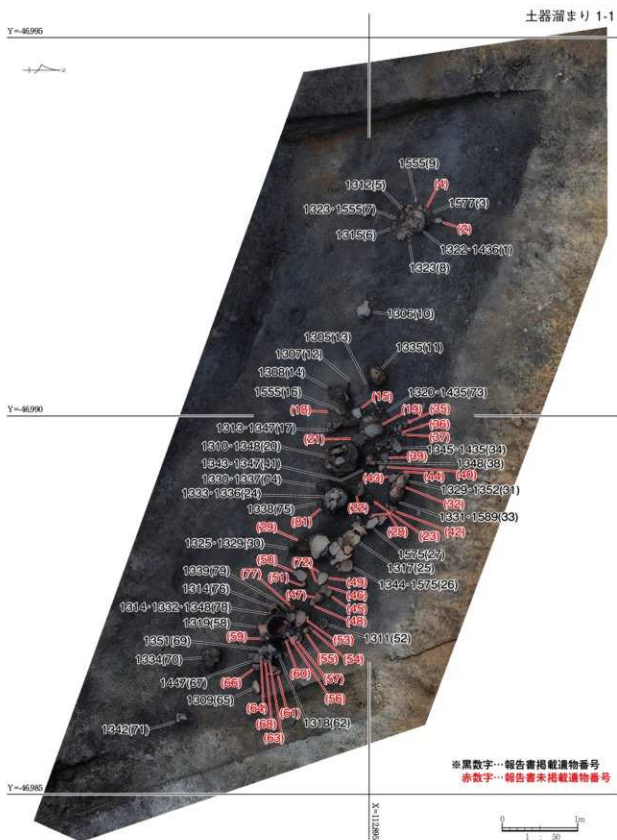


図399 SR25 土器溜まり 1-1 遺物出土状況

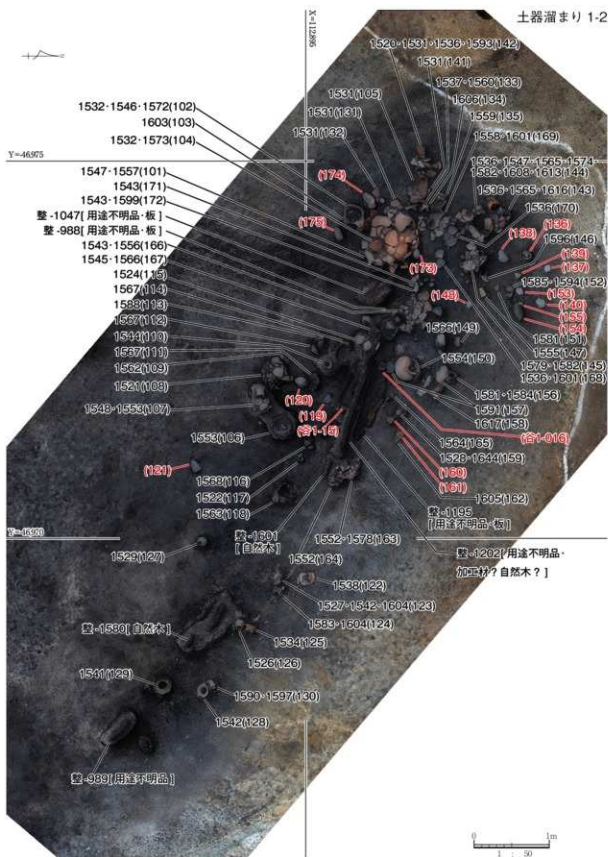


図400 SR25 土器溜まり1-2 遺物出土状況

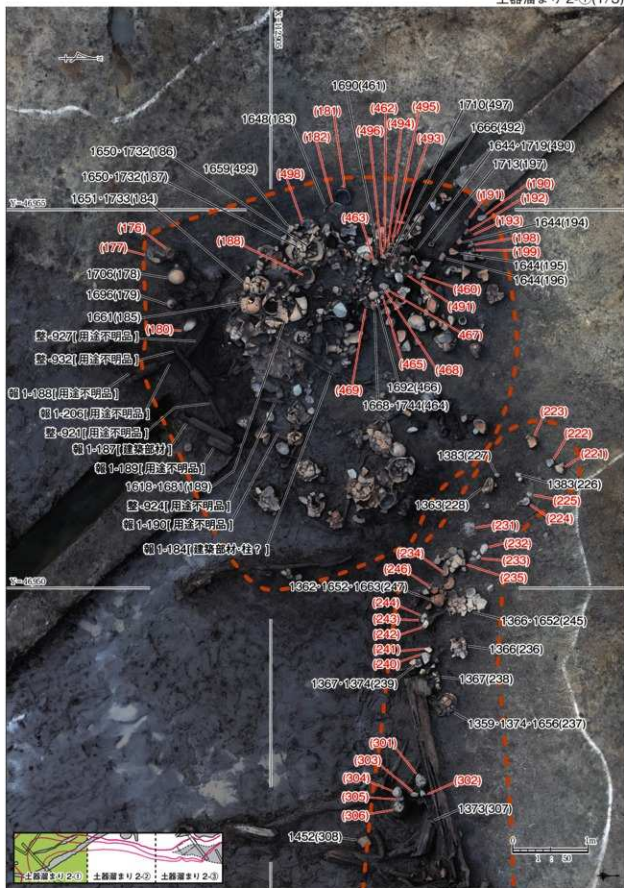


図401 SR25 土器溜まり2-①(1/3) 遺物出土状況

土器溜まり 2-①(2/3)

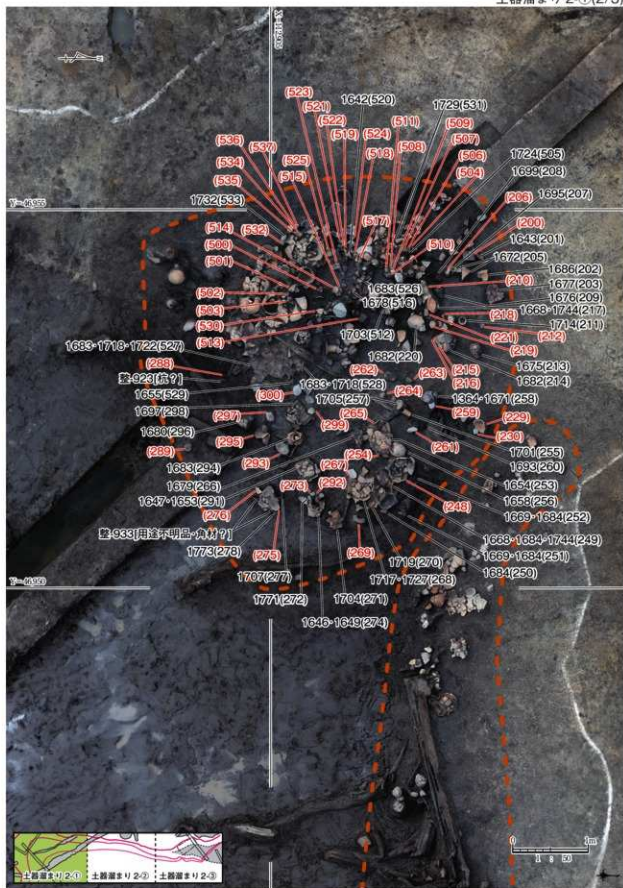


図402 SR25 土器溜まり2-①(2/3) 遺物出土状況

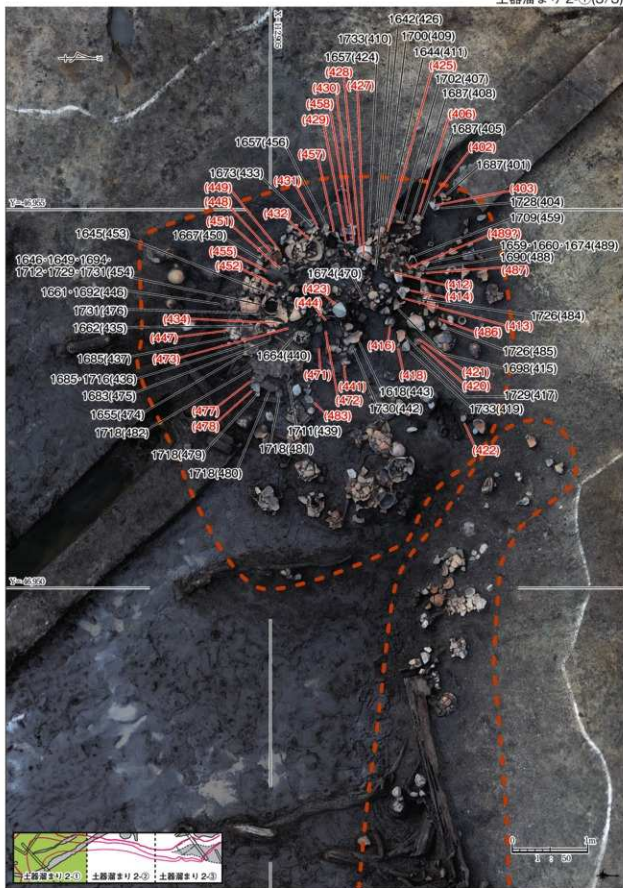


図403 SR25 土器溜まり2-①(3/3) 遺物出土状況

土器溜まり 2-②

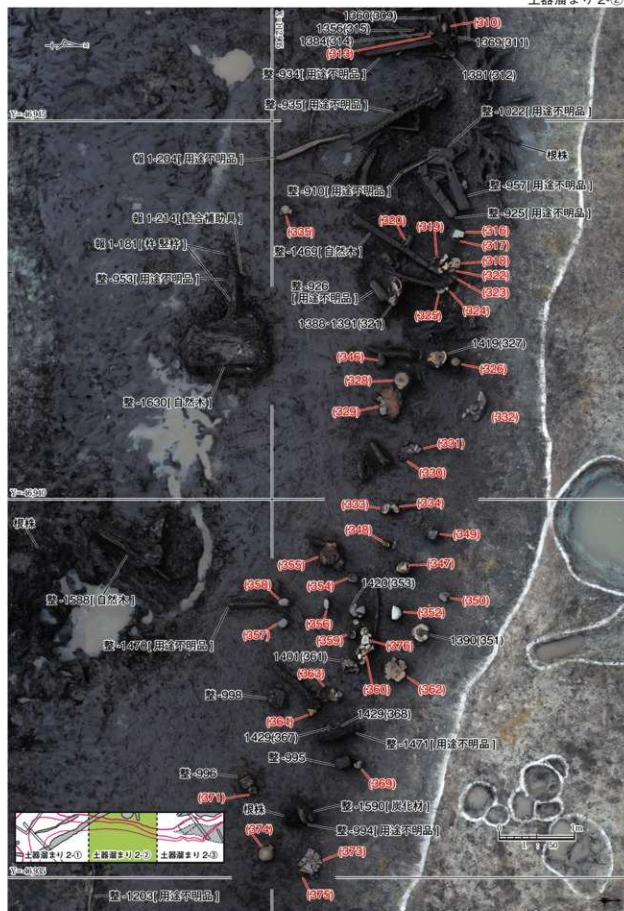


図404 SR25 土器溜まり2-② 遺物出土状況



図405 SR25 土器溜まり2-③ 遺物出土状況

土器 1285～1288は上層1-8区からの出土である。1285は須恵器杯、1286は土師質土器小皿である。1287・1288は黒色土器碗で内面のみ黒色化している。

1289～1302は1層1-8区からの出土である。1289は土師器鉢である。1290は器種不明の土師器片で内外面に赤色顔料が塗布されている。胎土は精緻である。口縁部に注口をもつ可能性がある。須恵器蓋1291は内面に擦痕が認められることから転用硯と考えられる。1292・1293は須恵器蓋である。1294～1300は須恵器杯で、1298の底部外面には「家原。」²の墨書が認められる。須恵器皿1301は焼成が甘いため青灰色を呈していない。1302は須恵器甕である。

1303は1層1-6区から出土した平瓦である。

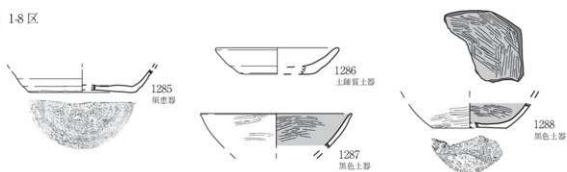
1304は2層1-1区出土の須恵器皿である。焼成が甘いため青灰色を呈していない。

1305～1355は14層1-1区から出土した遺物である。1305～1322は弥生土器壺である。1305・1306は短頸直口壺で、1306は胴部上位に2段の列点文が施されている。胴部最大径付近の孔は意図的な焼成後穿孔の可能性がある。口縁部を欠損する1307は短頸広口壺だろう。1308は直立する頸部からやや突出する箇所を経て直立する口縁部にいたる。口頸部境の突出部には幅が広い沈線文が施される。1309は広口壺で口縁端部の円形浮文は2個一対となっている。1310～1314・1317・1319・1320・1322の頸胴部境の屈曲はやや弱くなっているが、1311～1313の口縁端部には凹線文が残る。1316は肩部に櫛描文による記号文が認められる。1帯の水平方向の櫛描文から上方に複数帯の櫛描文が伸び、そこに半円状の櫛描文が接続する。1321は複合口縁壺で突出部外面に凹線文が巡る。1323～1339は弥生土器甕である。1323・1325～1339の口頸部境の屈曲は弱く、1323～1327の口縁端部外面には凹線文が残る。1324はヨコナデにより口頸部境の強い屈曲と口縁端部外面の凹線文が生じている。1340～1344は弥生土器高杯である。1340の拡張する脚端部外面には3条の凹線文が回り、脚部下位には一定間隔ごとに縦位の櫛描文が施される。1343の脚部は低い。杯部の内外面には分割のミガキが認められる。1345～1349は弥生土器鉢である。1350は弥生土器蓋で円形孔が穿たれる。1351・1352は弥生土器器台である。いずれも胴部には2段の円形透孔を有する。1351の口縁部上面には放射状のミガキがおこなわれている。1353・1354は弥生土器支脚、1355は平瓦である。

1356～1386は14層1-6区から出土した遺物で、このうち1356～1360は弥生土器壺である。1356は短頸広口壺で、口縁端部外面には明瞭な凹線文が巡る。1357は頸部に斜格子文交帯を有する。1358は無形壺で口縁端部は内外に拡張し、外面に刻目文をもつ。1359の頸部にはやや幅の広い沈線文3条が巡る。1361～1371は弥生土器甕である。1361～1368・1370の口頸部境の屈曲は弱い。1361～1366の口縁端部には凹線文が残存する。1371は強く屈曲する口頸部境から直線的に口縁部が伸び、胴部はやや細身になっている。1372～1375は弥生土器高杯である。1373～1375の脚部には複数状の沈線文と矢羽根形透孔が認められる。1376～1386は弥生土器鉢である。1376は付台鉢の脚部で端部外面には明瞭な凹線文が巡る。1383は中実の脚部で高さもあるが鉢とした。粗雑なつくりの1384は脚部が高く、胴部最大径に比べて口縁部径が小さい。

1387～1425は14層1-7区からの出土で、1387～1393は弥生土器壺である。短頸広口壺1394の外面には縦位のハケと横位のミガキによる調整がおこなわれている。広口壺1389の口縁端部外面に

上層 1-8 区



1層 1-8 区

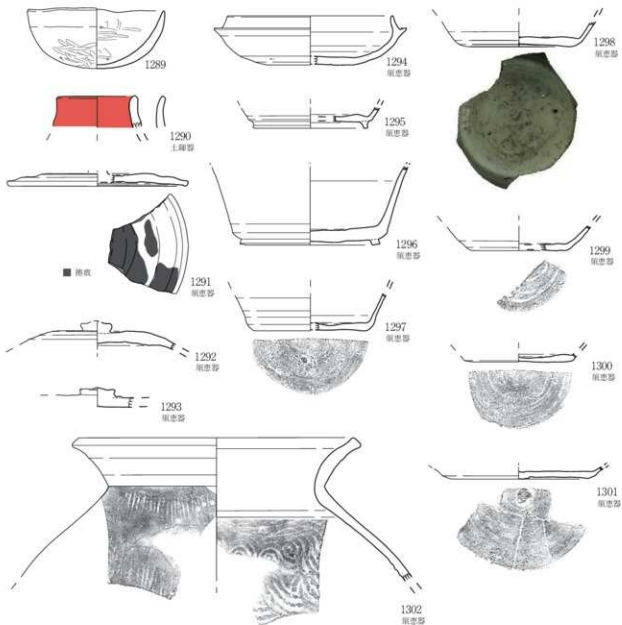
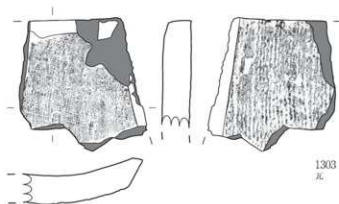


図406 SR25 出土遺物 1

1層 1-6区



2層 1-1区



14層 1-1区

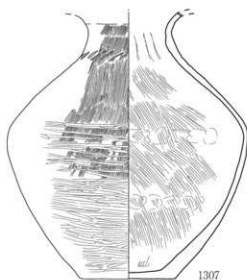
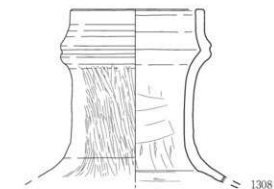
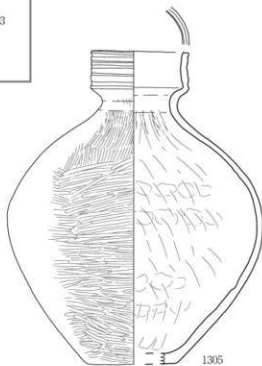


図407 SR25 出土遺物 2

14 層 1-1 区

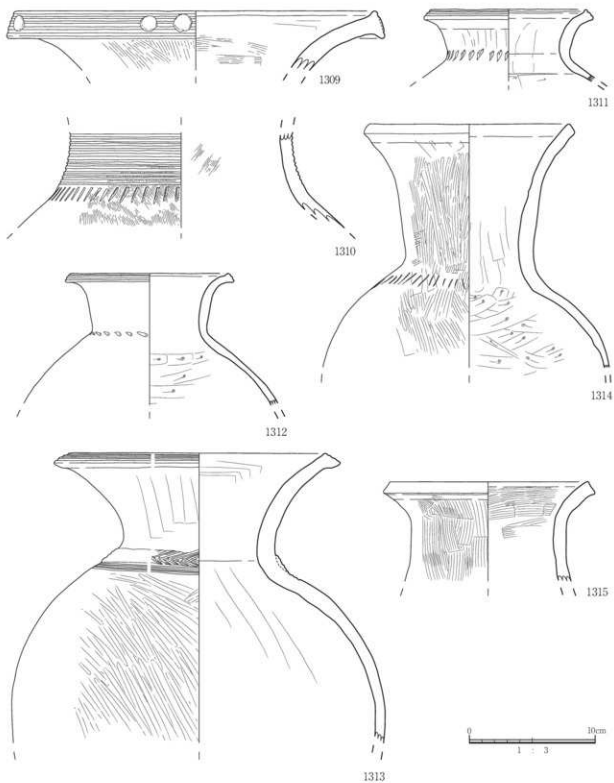


図408 SR25 出土遺物 3

は凹線文状に円形浮文が付されている。1391は複合口縁壺で口縁部外面には鋸歯文が認められる。胴部片と推測される1392には孤状を描く記号文が描かれている。1394～1397は土師器壺である。1394の口縁端部直下には円形孔が穿たれている。1395の口縁端部はやや外反する。1396・1397の口縁端部は内側に若干突出する。1398・1399は土師器小型丸底壺である。1400～1412は弥生土器甕である。1400・1401はヨコナデによる口頸部境の強い屈曲と口縁端部の上方への拡張を伴う。1402～1410の口頸部境の屈曲は弱い。1405の口縁端部には凹線文が残る。1411・1412の口頸部境は強く屈曲する。欠損する胴部はやや細身になるだろう。1413・1414は土師器甕である。内面は頸部直下までケズリがおこなわれている。1415・1416は弥生土器甕である。1417～1420は弥生土器高杯である。1417は脚部下位の凹線文と矢羽根形透孔を伴う。1418の脚部には2段の円形透孔が穿たれている。1420の脚端部はほぼ垂直に立ち上がる。1421～1425は弥生土器鉢である。

1426～1434は14層1-8区から出土した。1426～1428は弥生土器壺で、1426の口縁端部外面には

14層 1-1区

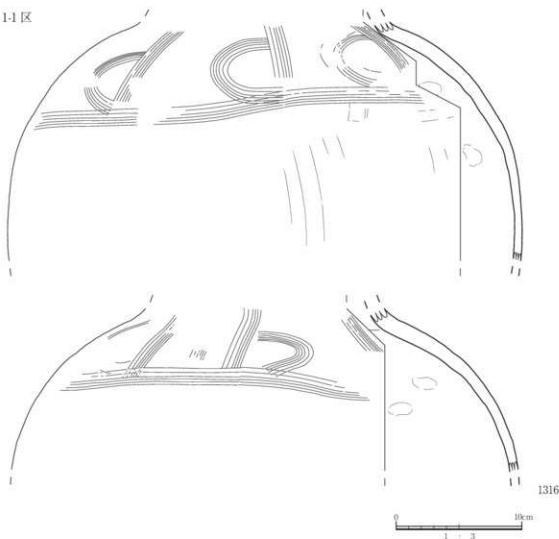


図409 SR25 出土遺物 4

14 層 1-1 区

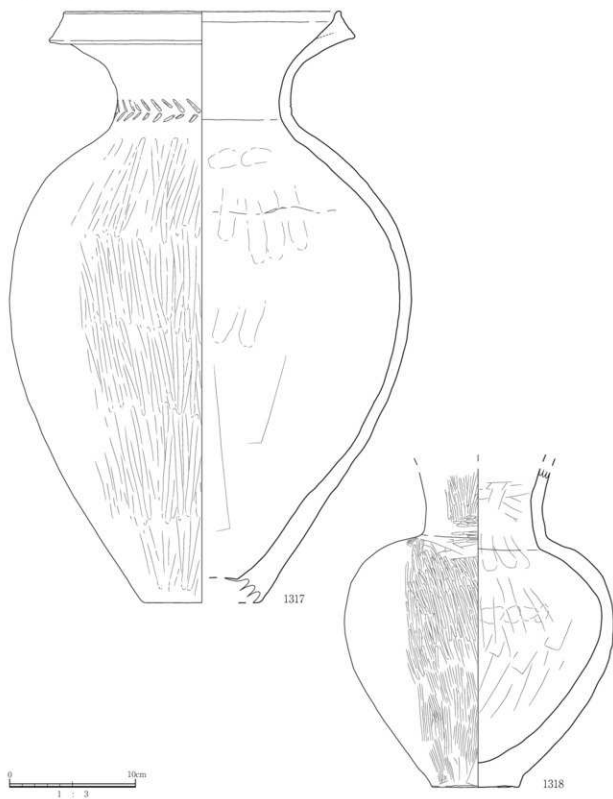


図410 SR25 出土遺物 5

14層 1-1区

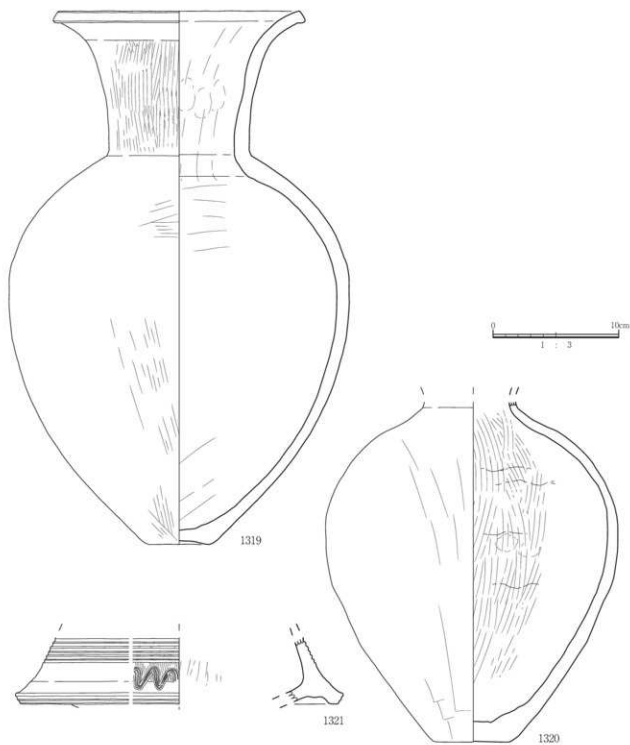


図411 SR25 出土遺物 6

14層 1-1区

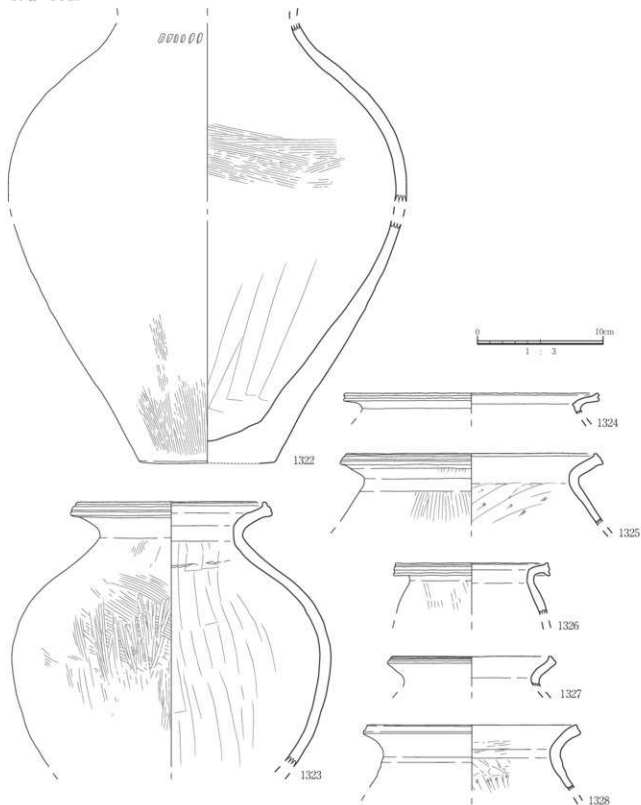


図412 SR25 出土遺物 7

14層 1-1区

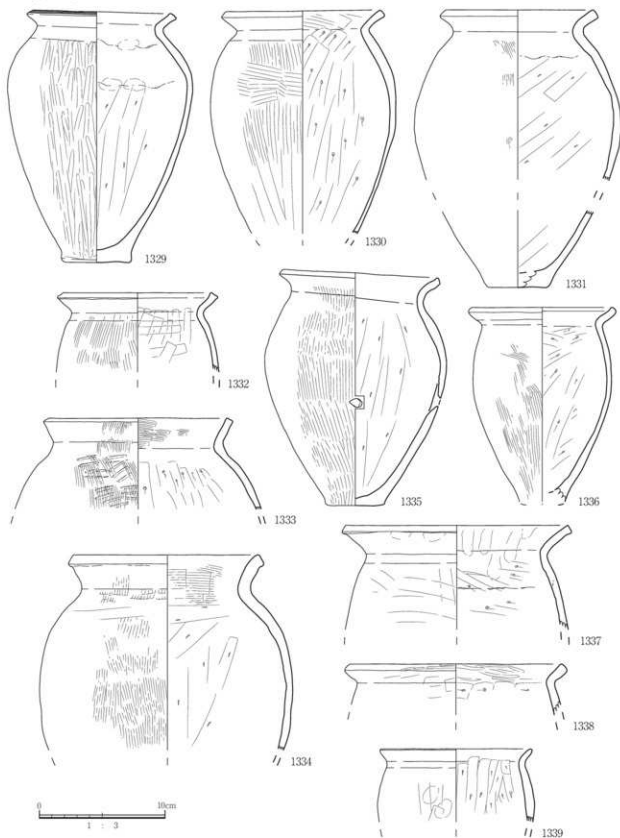


図413 SR25 出土遺物 8

14層 1-1区

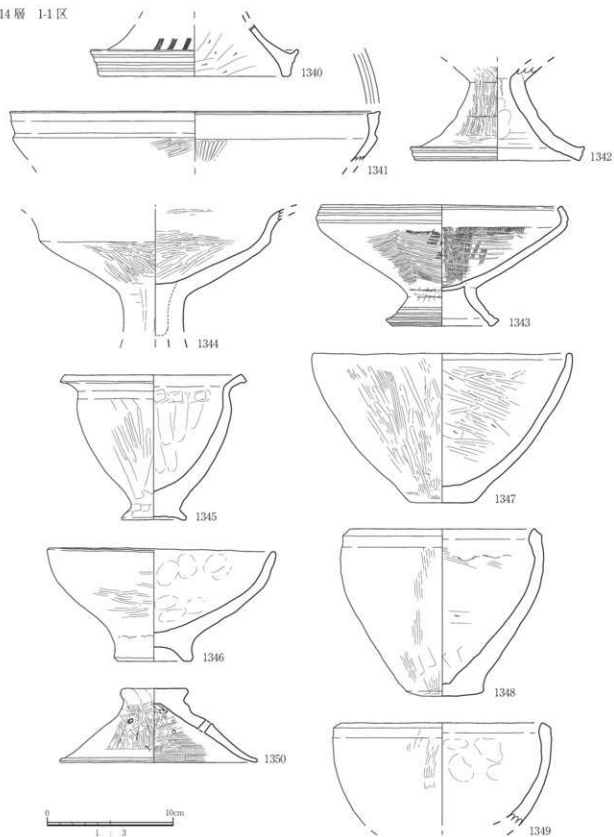


図414 SR25 出土遺物 9

14層 1-1区

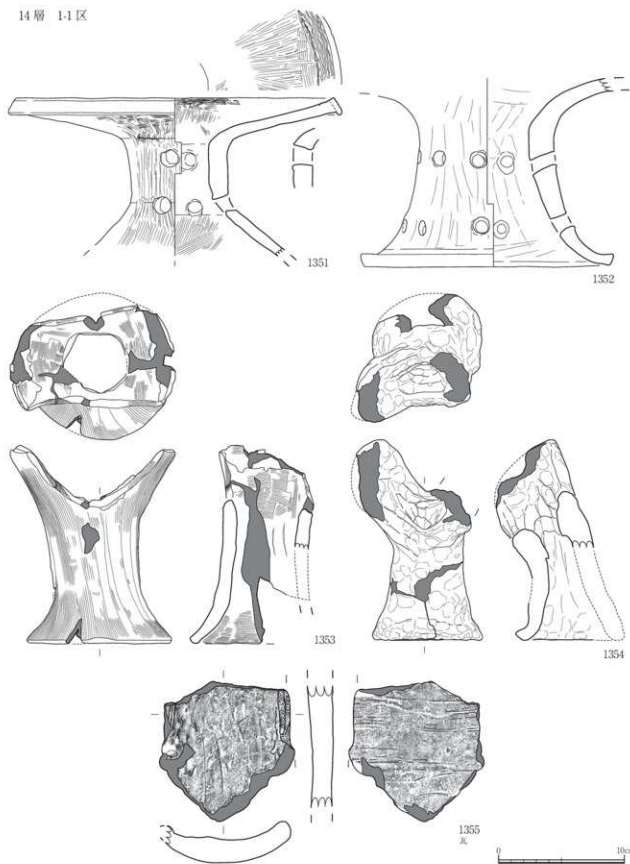


図415 SR25 出土遺物 10

14層 1-6区

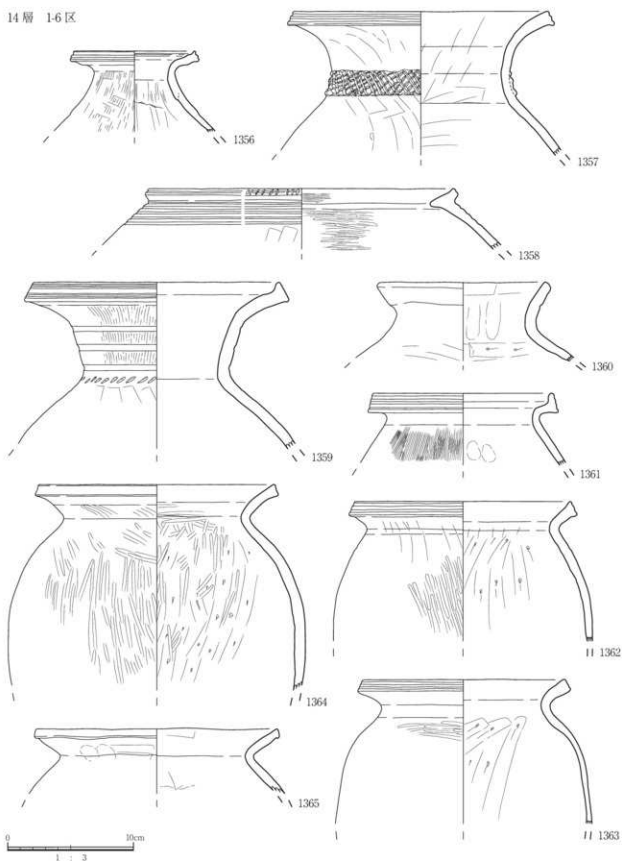


図416 SR25 出土遺物 11

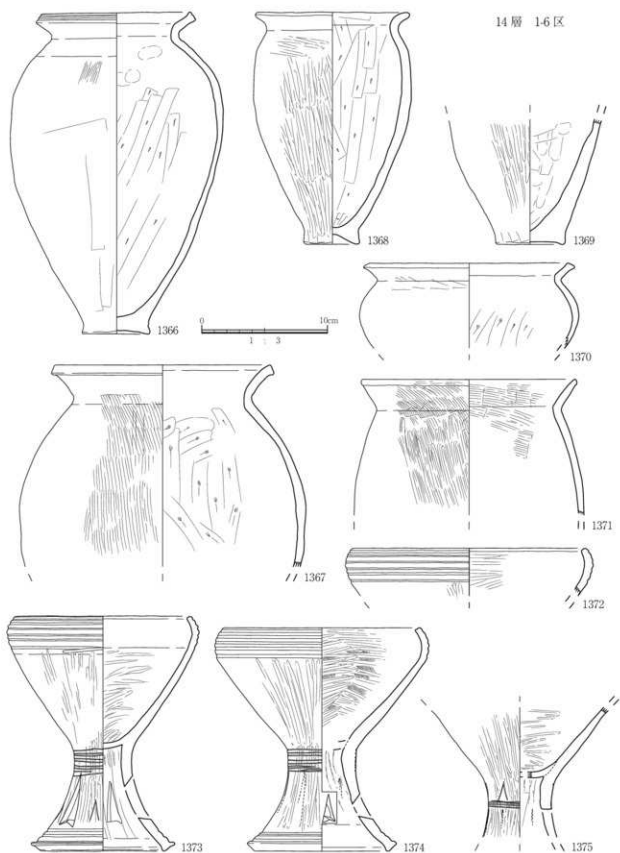


図417 SR25 出土遺物 12